



報告者 都立新島高等学校 教諭 伊藤 隆則  
東久留米市立小山小学校 教諭 並木 勝啓

## 月一日曜読書会 実践報告

- 1 形態：月一回、日曜日に神田のコーヒーショップ（通例、タリーズコーヒー神保町三井ビルディング店）で行う。通例 14:00-17:00。終了後に食事会を行うことも。
- 2 手順：参加者は、課題本を各自購入し、三色ボールペンで線を引きながら読んでくる。読書会では3-4人程度のグループを作り、マッピングを中心に課題本についてフリーのブックトークをする。司会者などは立てない。「自らに引きつけて考える」、「構造化して考える」ことに留意。複数グループの場合は、マップをもとにプレゼンテーションを相互に行う。
- 3 開催決定の原則：課題本の80%以上を読破している人の参加が3名以上見込まれること。

これに達しない場合は、延期または中止。

### 4 実践例

- 平成21年11月会 内田樹『私家版・ユダヤ文化論』文春文庫
- 平成21年10月会 井上ひさし『四十一番の少年』文春文庫
- 平成21年9月会 『ロマン派の交響曲』講談社現代新書
- 平成21年8月会 村上春樹『スポーツニクの恋人』講談社文庫
- 平成21年6月会 ゴーゴリ『鼻・外套・査察官』光文社古典新訳文庫
- 平成21年5月会 山極寿一『暴力はどこからきたか』NHKブックス
- 平成21年4月会 井上夢人『おかしな二人』講談社文庫

おおむね、小説(文庫)→論説(新書)→小説→論説、という流れで課題本を選んでいる。課題本は参加者が持ちよったおすすめ本のなかから、当日の参加者で話し合っ

それ以前の実践例 清水真木『友情を疑う』中公新書、クンデラ『存在の耐えられない軽さ』、小川洋子『密やかな結晶』講談社文庫、内田義彦『資本論の世界』岩波新書、『岸信介』岩波新書、ブロンデ『嵐が丘』新潮文庫、ラブレー『ガルガンチュア』ちくま文庫、『坂口安吾全集』、都築響一『TOKYO STYLE』(写真集)ちくま文庫、オーウェル『1984年』ハヤカワ文庫、『ライ麦畑でつかまえて』白水ブックス、デューイ『学校と社会』岩波文庫、品田知美『〈子育て法〉革命』中公新書、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、村上春樹『海辺のカフカ』新潮文庫、鈴木謙介『カーニバル化する社会』講談社現代新書

- 5 私の考える効用 本を読み、考え、話す習慣が身につく。継続的に教養を吸収できる。一人では「なんとなく」しか読めていなかった本に、より踏み込むことができる。異校種・異業種の間関係をつくることができる。話し合い、マッピングやプレゼンテーションを通して情報の整理、応用、伝達のトレーニングができる。
- 6 方法論リンク 齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』『マッピング・コミュニケーション』、内田義彦『読書と社会科学』、清水幾太郎『論文の書き方』

## 目標設定会実践報告

### 1、実践報告

#### ①目標設定勉強会

目的：目標設定の方法、継続するためのメソッドを学ぶ。

活動日：2009年10月（小林先生、永持先生との合同開催）

参加者：現役明治大学生

活動内容：日誌、ルーティンチェック表の効用&書き方、私の実践報告 など

成果：普段はあまり学ぶことのできない分野について学習できる。

教員になってからも部活などで生徒に応用できる。

現役大学生との交流がもてる。

課題：継続的ではなく、一回限りの活動なので、あくまで紹介程度になってしまう。

成果の検証などができない。

#### ②LIB（隔月勉強会）

目的：各人が目標を設定し、それに向かって日々研鑽を積めるよう促す。

異業種交流を図ることで他の視点を得る。

活動内容：・課題本の読書会 ・前回立てた目標の達成度の確認を含めた実践報告

・取り上げたい話題があれば、そのテーマに沿ったディスカッション

参加者：予備校経営者、大学院生、飲食店勤務者、会計士など

形態：

活動履歴：2009年1月から隔月開催（通例：第3土曜日夜）

成果：異業種交流ができるので、広い視点から自分の仕事をとらえることができる。

日々の活動のモチベーションとなる。

課題：内輪の活動である。

人数が増えた時の活動場所がない。

### 2、今後の展望

定期的に教科、部活の実践報告をする（受ける）場がない。公開授業のような形式的な研究会とは違う、個人の実践のほかに、学校ごとの文化、方法論を学べる定期的な勉強会が欲しい。